

令和6年度学校評価自己評価表(中間)

【校訓】正直に生活し 進んで学び 自己を守り 人と社会のために奉仕する

【学校教育目標】本校で学んだことに誇りをもち、高い志のもと「自立した社会人」として活躍できる生徒の育成

学校名(廿日市市立廿日市中学校)

中期 経営目標	評価計画					自己評価					学校運営 協議会委員 評価コメント	改善方策
	短期 経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	評価方法	目標値	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
10年後、20年後の将来を見据え、生徒に身に付けさせたい資質・能力として、「思考力表現力」「主体性」「自己有用感」を育成する	A「学びの革新」のさらなる推進	(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善【◎重点】	ICT 端末を活用した授業づくりのさらなる推進及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る研究	①<個別最適な学び>【市共通項目】 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」と回答した生徒の割合 【現状値】92.2%	生徒アンケート 全国学力・学習状況調査	全生徒の85%以上	92.0% 88.3%	108% 104%	A	授業でのICT端末の活用により、課題に個別で取り組みやすくなっていること、各教科で、課題解決学習を積極的に取り入れていることの効果が表れていると考えられる。	自分の意見を述べ、他の意見を聞ける生徒を育ててほしい。	
				②<協働的な学び> 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。」と回答した生徒の割合 【新規】	生徒アンケート	全生徒の85%以上	96.8%	114%	A	今年度は、昨年度から導入しているロイロノートの活用が一層進み、多様な形態での意見交流が容易になったことが要因と考えられる。		
		(2)ユニバーサルデザインの考え方に基いた授業づくり	多様な生徒への支援を行うための「焦点化」「視覚化」「共有化」を意識した授業の実践	③<ユニバーサルデザイン> 「ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくりを行っている」と回答した教員の割合 【現状値】92.2%	教職員アンケート	全教員の90%以上	92.9%	103%	A	今年度は、教職員の入れ替わりも多かったが、年度当初から校内研修を行い、取組の足並みを揃えることができたことが有効であったと考えられる。		
	B安全・安心な居場所づくり	(3)不登校や問題行動への対応と未然防止【◎重点】	居心地のよい学級や学校を創る取組への価値付け	④<朝読書> 「朝読書を通して、落ち着いた朝の時間を過ごすことができている。」と回答した生徒の割合 【現状値】89.3%	生徒アンケート	全生徒の90%以上	91.7%	102%	A	8:15 までに教室に入り、朝読書の準備をする生徒が増え、机上整理を含めた声かけを教員や生徒が行っている効果が表れていると考えられる。		
				⑤<清掃活動>【小中共通項目】 「清掃活動を通して、居心地のよい学校づくりに貢献している。」と回答した生徒の割合 【現状値】93.8%	生徒アンケート	全生徒の90%以上	95.6%	107%	A	「無言清掃」と「気付き掃除」をキーワードに取り組み、自身に与えられた役割と場所を時間いっぱい取り組む生徒が増えてきたことが要因と考えられる。		
			教育相談等を活用した生徒理解やアセス(学校環境適応感尺度)結果等に着眼した学級集団づくり	⑥<自己有用感> 「自分のよさは、周りの人から認められている。」と回答した生徒の割合 【新規】	生徒アンケート	全生徒の80%以上	88.9%	111%	A	体育祭等での縦割り活動や、日々の学級活動の中で、自己有用感の向上を目的とした取組を実践していることが有効であったと考えられる。	先輩が楽しいと感じることで、活動が楽しいと思える。	
				⑦<他者理解> 「相手の気持ちになって考えて行動する。」と回答した生徒の割合 【現状値】79.7%	アセス	全生徒の80%以上	81.8%	102%	A	昨年度からスタートしたグループアプローチ等、相手の立場を考えたコミュニケーションをとることへの意識が芽生えてきたことが要因と考えられる。		
				⑧<個々に応じた居場所づくり> 不登校の生徒数が全校生徒に占める割合 【現状値】6.6%	諸課題集計表	不登校率3.1%以下	4.2%	74%	C	引き続き、教育相談体制の整備を進めるとともに、家と所属する学級の教室のみが居場所となっている生徒については、心の教室や外部関係機関(子ども相談室等)も居場所の一つとなるよう取り組んでいく。	不登校やいじめなどの課題に地道に取り組んできたことが分かる。よく努力されている。	
	C保護者・地域とともにある学校づくり	(4)学校の課題や目標等の共有	学級、学年、学校だより、学校ホームページによるタイムリーな情報発信	⑨<学校情報の共有> 「学校からの情報発信により、学校の取組や生徒の活動の様子がよく分かる。」と回答した保護者の割合 【新規】	保護者アンケート	全保護者の90%以上	81.7%	91%	B	HPの更新や学校だよりの発行を定期的に行っているが、目標値を下回った。保護者のニーズに応じた情報発信の在り方を考える必要がある。	保護者のニーズを具体的にイメージするとよい。	
		(5)生徒と地域のつながりの強化【◎重点】	「ふるさと学習」の充実及び生徒会地域活動部隊による地域貢献活動の促進	⑩<地域貢献> 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」と回答した生徒の割合 【現状値】72.6%	生徒アンケート	全生徒の70%以上	84.0%	120%	A	地域の行事に参加することで、地域貢献への意欲が向上したと思われる。特定の生徒ではなく、たくさんの生徒が参加できるよう呼び掛けている。	地域も生徒と交流を図りたい。参加した中学生の感想が地域に還元できていない。不満な点もあげてほしい。	
D風通しのよい職場づくり	(6)不祥事を生まない働きがいのある職場づくり	職員同士の円滑なコミュニケーションと情報の共有	⑪<同僚性> 「本校は同僚性の高い職場だと思う。」と回答した教職員の割合 【新規】	教職員アンケート	全教職員の90%以上	90.0%	100%	A	目標値の90%という結果だったが、否定的な回答の要因をいろいろな視点から考え、助け合い、支えあう雰囲気をより一層醸成していきたい。	思い切って変えないと、改革にはならない。ぎくしゃくする職場は子供のためにならない。		